

清元市長 定時総会で15分余に亘り熱弁!

【司会】

本日はお忙しい中、4月23日の姫路市長選挙で見事再選を果たされた、清元秀泰市長が4年振りに定時総会にお越し下さった。市長選前に「播州屋台会館(仮称)建設に関する「公開質問状」をお出し、それに対するご回答をホームページに掲載、本日の総会資料にも付けている。

今日は、会館がいつ出来るのか…例えば今任期中に決定し、次の任期で建設実現(笑)と云った様な事も含めてお話し戴けるのではないかと考えている。



熱い想いとコロナとのジレンマ

事務局から非常に高いハードルの紹介を受けたが(笑)、屋台会館問題に関しては、石見市長時代よりも一歩でも二歩でも進めたいと、1期目から熱い想いで対処して来たつもりだ。

しかしここ3年間、新型コロナウイルス蔓延の影響で祭りそのものが通常通り行われず、地域コミュニティと云う面での活性化を削いだり、これは地場産業という観点でもあるのだが、檀尻・屋台装飾に関わる職人さん達の仕事が減少したり、その技術をどう保存・継承していくのか等の問題が浮かび上がり、なかなか会館問題が進まなかった。

夜遅くまで「公開質問状」に頭を絞る

市長選の前に「公開質問状」を戴いた。一つの質問に関しても色んな要素がある中で、屋保連から与えられたフォーマットは2~3程度で書けとなっていたので、どう答えを書くか夜遅くまで頭を絞って考えたがあれは無理だ(笑)。

11万人に近い署名に少しでもお応えするべく、独自の様式での提出もお願いした。

「公開質問状」への自筆回答書

屋台文化保存連絡会

公開質問状

Q1. 当会は平成15年(2003)10月7日、『播州屋台会館(仮称)早期建設提案書』を、109,442名の署名簿と共に、石見利勝姫路市長(当時)に提出しましたがご存じですか?
 知っております

Q2. (ご存じの場合) 109,442名の重みをどう受け止めておられますか?
 非常に重く受け止めています。(詳細は別紙添付して下さい)

Q3. 提案書提出から今年で20年。実現に向けて進まなかったのは何故だとお考えですか?
 解決すべき課題が多すぎ、高調整や進んでいけるからだと感じます。(別紙添付)

Q4. ズバリお聞きします。会館を建てるおつもりはお有りですか?
 様々な課題を乗り越えて「仮称」の「播州屋台文化ミュージアム」として持続可能な施設として整備したい。(詳細は別紙)

Q5. (お有りの場合) 場所は具体的にどこが良いとお考えですか?
 ①姫路城周辺 ②姫路駅周辺(駅西エリア) ③姫路港旅客ターミナル周辺 ④各地文化工芸に活用したい(詳細は別紙添付)

Q6. (お有りの場合) 建設費に関し、何か工夫がお有りですか?
 自走できる維持管理費を捻出できるかどうかという議論も重要で、国補助金が現時点で望める限りCF等も活用する(詳細は別紙添付)

Q7. (お有りの場合) 運営に関し、何か思う事がお有りですか?
 展示物を観覧するだけでなく、祭り文化を体感してもらえ、ARやVRと最大限活用してデジタルミュージアムの併設が大切だと思います(別紙添付)

Q8. (お有りの場合) 選挙公約に掲げますか? 掲げる場合、どのような文言・表現になりますか?
 掲げている。具体的には以下の文言で「お城や祭りを体感できる施設整備による伝統文化の継承」

※. その他、本件に関するご意見がお有りでしたら、ご自由にお書き下さい。
 祭り文化や姫路のふるさとに対する情熱と持つべき市民の責任を、私とかが担うものにしてほしい。その目的を達成するために、屋台文化保存連絡会や祭り文化活動を支援してくれる市民や関係者の絶大な協力をお願いします。
 令和5年(2023)3月16日
 お名前: 清元秀泰

他県の施設を研究視察

1期目を通して、独自に他都市の同様な施設も研究して来たが、ハードルが高いのが分かって来た。建設は出来たとしても、その維持が難しい。

上手く行っている施設は屋台蔵代替機能を持っているとか付加価値を高めている。姫路の文化は他都市を凌駕するレベルにあると思っている。それであるからこそ建設場所を含めて難しいのだ。祭りと云う事だけではなく、市民の総意にしないといけない。

目の前に市議会議長(屋保連会員地区/坂上自治会長の三輪敏之氏)もいらっしゃるので、諸々議論をして行きたいと思っている。



清元市長の挨拶を熱心に聞き入る三輪市議会議長
 「播州祭り屋台伝統文化保存議員連盟」の会長でもある

市長が独自でご用意された「公開質問状」への回答書

【屋台文化保存連絡会 公開質問状への回答】

■■■■2003年に「屋台会館早期建設提案書」を提出したことを知っているか。
 ■知っている。

■■■■11万人の重みをどう受け止める。
 ■当時の人口48万人だった姫路市で、市長を解職請求できる署名数(約14万7千人)に届こうかという数で、非常に重たい数字である。その実現は、市民の長年の悲願だと受け止めている。
 ※有権者の3分の1以上(有権者総数が40万人を超えるときは、40万を超える数の6分の1と40万の3分の1を合計した数以上)

■■■■提案書提出から今年で20年。なぜ実現しない?
 ■整備するからには、入場料収入で相応の維持管理費を賄っていかななくてはならない。集客の面からも駅周辺もしくは姫路城周辺での立地がふさわしい。城周辺の場合、本町68番地で開発行為を行うには文化庁の許認可が必須である。課題を整理するためには、文化庁が納得する特別史跡姫路城跡保存活用計画の改訂が前提であり、その膨大な課題解決が十分に練られていないことが実現できない理由だと思っている。そのため、駅周辺や既存施設の利活用、改修計画など幅広く実現に向けた作業に取り組んでいる。

■■■■会館を建てる考えはあるか?
 ■屋台文化保存というコンセプトの単独施設では採算性・持続可能性が脆弱で、持続可能性の観点から実現の可能性が低いと感じる。宗教催事への公金支出の行政上の問題点など、市議会への理解も含めて得にくい現状がある。このため、従来の「姫路城ミュージアム」構想を発展させ、①祭り・屋台・獅子舞など民俗文化、②姫路城や城下町の歴史・構造・遺構、③黒田官兵衛や千姫、河合寸翁など歴史上の人物の理解促進、④明珍火箸・姫革細工・姫路仏壇など伝統的な地場産業について解説・展示・体験・学習・顕彰できる機能を併せ持つ「(仮称)はりま伝統文化ミュージアム」として実現の可能性を探りたい。

■■■■場所はどこが良いか?
 ■平成27年度策定の姫路城跡中曲施設整備方針において、従来の「姫路城ミュージアム」の立地場所としては大手門駐車場の東エリアが最適と評価されている。しかし、姫路城周辺では今後、姫路城東休憩施設の整備(または美術館の増築)、東消防署や動物園の移転、日本城郭研究センターや中央支所、市民会館、保健所の大規模改修・建替などが見込まれていることから、特別史跡姫路城跡保存活用計画と整合性を図りながら姫路城周辺での適地を探索したい。一方で、駅西エリアの活性化をなど、新たな観光拠点化計画や既存の姫路市の施設の改修など、実現可能性を前提に決定したい。当然、周辺への経済波及効果も考慮するが、祭り文化は全市的なものであるもので地域格差を引き起こすことは極力避けたいと考えている。

■それまでの間、姫路港の新しい旅客船ターミナル(現在改修中)で「播州屋台会館」を仮設置できるか検討する。

■■■■建設費に工夫はあるか?
 ■祭り・屋台という単一テーマでの整備には国の補助金採択が望めず、本市の財源だけで対応せざるを得ない。そのため、文化庁の補助を見込める内容での整備を目指している。また、観光という観点では、単なる屋台の展示、工芸品としての静的展示のみよりもVRやAR(仮想現実や拡張現実)を駆使した体験型施設として整備するべきである。そのためにも、デジタルコンテンツの作成や展示物の収集に必要な費用を集めるため、クラウドファンディングやふるさと納税等の手法を活用し、祭り文化を大切に思う市民の機運を盛り上げていく。

■■■■運営に関し、何か思うことは?
 ■展示物の適切な保存、彫刻や刺繍の実演公開、特別展の企画には、寄贈元や屋保連の協力が不可欠である。さらには、体験型施設という観点からも、本物の屋台の練り出しや獅子舞の演舞にも各地区の持ち回りで力を貸していただきたい。臨場感のあるVRやARを導入するためにはリアルな祭りのデジタルアーカイブ化等にも協力をお願いしたい。また、ミュージアム来館者には本物の祭りにも足を運んでもらいたいため、各地区では観光客が安全に祭りを見物できる仕組みづくりにもご提言、ご協力をお願いしたい。

■■■■選挙公約に掲げるか? 掲げる場合の文言・表現は?
 ■公約として掲げている。その表現は「お城や祭りを体感できる施設整備による伝統文化の継承」。

■■■■その他、本件に関する意見を。
 ■20数年来の市民の悲願を、なんとか形にしたい。所期の目的を達成するためにも、播磨の祭り文化を大切に市民の皆様からの絶大な協力をお願いする。

体験型施設を視野

具体的には、博物館的な静のものではない、体験型でないダメだと思っている。それも現代の映像技術、即ちリモート・AR・VRを駆使し、五感に訴える三次元体験型を現在調査中だ。

加えて、工芸の担い手の職人さん方の協力を得て、自ら参加・体験する施設、つまりは、歴史の重みを感じさせると共に、エンターテインメント施設にしたい。

有識者会議の立上げを!

53万市民の総意として建設する為にも市民の理解と、市議会は勿論、文化庁等の理解を含めた民意の形成が必要だ。一般からの答申と云う意味で「有識者会議」を立ち上げて戴き、行政と両輪で進めて市民の賛同を得たい。

また去年・今年と祭りの完全復活が見込まれるので、そこには若者の意見も取り入れて欲しい。何れにしても基本設計には2~3年掛かるので、持続可能な提言を期待する。

「姫路城ミュージアム」構想とのコラボレーションも視野に入れながら、「(仮称)はりま伝統文化ミュージアム」の実現の可能性を探りたい。

最後になるが、屋保連では現在、文化庁の地域文化財総合活用推進補助金事業に力を入れ、申請・受給の実績が挙がっているが(4面参照)、これもどんどん進めて欲しい。文化庁への大きなアピールになる。



「播州屋台会館(仮称)」パース絵